

No 19 根気強く続けるソーシャルスキルの指導

社会性の基礎を身に付けるには(1)

一方的で友だちと遊べない・周りとのトラブルが多いなどのつまずきが見られる子どもたちは、その要因として、社会性が十分育っていないことが考えられます。

特に発達障害のあるお子さんは、不安が大きく、社会的場面に参加することができにくい子どもたちなので、よけいに体験が不足しがちです。

成功体験を積ませたくても、その場自体がないという状況では、ますます

つまずきが深刻化され、いじめ・不登校などの二次的障害につながる可能性がでてきます。

そこで、この悪循環を少しでも変えるために、社会性を教えるための場面を用意し、小さなことから教え育てていくことが大切になってきます。



社会性(ソーシャルスキル)を教える場

在籍学級の中で・・

毎日の学級生活の中で、こつこつと社会性を身につけていくことが大事です。その際の考慮点として、

成功をともなう体験でなければスキルは身につかない。ソーシャルスキルには、段階性がある。の2点を忘れないでください。例えば、集団で「話し合いができる」ためには、その前提として「発言する」「質問する」「回答する」「テーマを理解する」等のスキルが育っていなければ失敗体験に終わってしまいます。今、この子に身につけさせたいのは何のスキルからなのか、比較的やさしいことから目標(ステップ)をしっかり絞ることが必要です。小さなことでも、それが出来たらよしとします。そして、その成功体験を繰り返し行なうことが大切です。

専門的な指導の場で

通級指導教室・・一人一人に必要なソーシャルスキルトレーニングを、個別あるいは小集団で行う教室です。1週間に1~2時間、通級指導教室がある学校(教室)に通い、「注意して聞くことのスキル」や「質問できるスキル」など、ニーズに応じた内容を行います。通常の学級では他の子と同じスキルの獲得を求められ、失敗体験が多くなりがちな子どもたちですが、具体的なやり方を教えることで安心して体験することができる場です。(通級指導教室は、市内の5つの小学校と2つの中学校にあります。近日配布予定のリーフレットをご覧下さい。)

適応支援教室「かすたネット」・・通級指導教室と同様に、「成功体験を増やす」「初步的な社会性を一つ一つ獲得する」ことを目指し、週に1回、3時間のソーシャルスキルトレーニングを行っています。例えば、なかなか遊びに入れない子に、「入ってもいい?」「どこにはいればいいの?」などが言える状況を設定し、言う練習をすることで、仲間に入れるようにする等。集団になじめない子にとって、低学年の頃からのトレーニングが効果的です。(かすたネット適応支援教室は、教育センター3階にあります。教育センター相談室にお電話下さい。)



<指導のポイント>

子どもたちが「何かを身につけていくこと」は、ダンベルを使って筋肉トレーニングをするのと同じです。2kgのダンベルが持ち上げられるようになったからといって、トレーナーはその次の日に3kgのダンベルを要求しないでしょう。毎日2kgで繰り返しトレーニングし、気付くと筋力がかなりついたところで3kgを持ち上げられるのです。社会性も、根気強い地道な成功体験の繰り返しで力をつけるのかもしれません。(具体的なソーシャルスキルの指導法は次号に掲載)